

平成 18 年度

多 摩 市  
環 境 報 告 書

特集 ごみ問題について

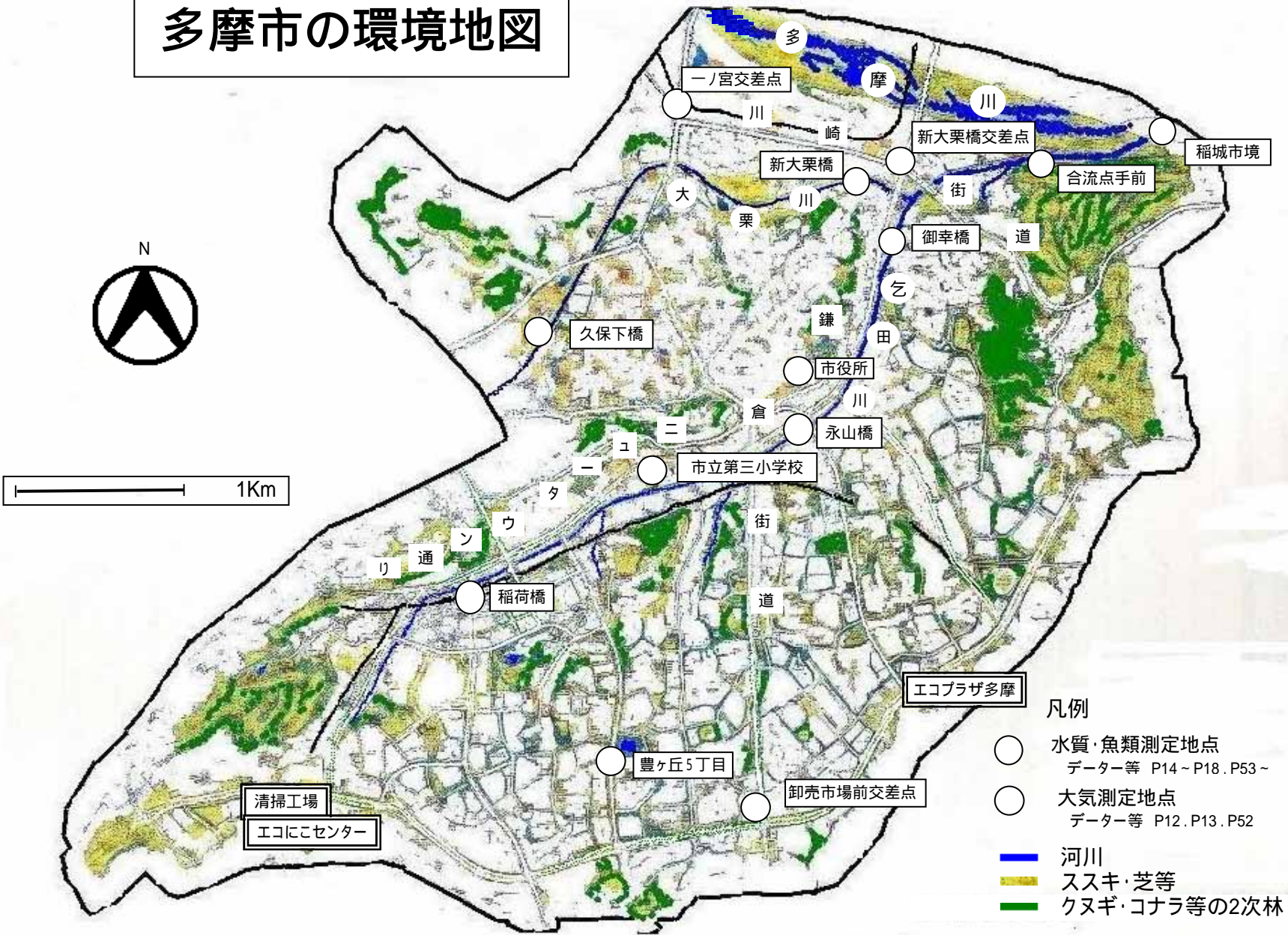
平成 19 年 10 月

東京都多摩市

# 目 次

かけがえのない地球・多摩市の未来のため(多摩市環境基本計画より).....	1
平成18年度 多摩市環境報告書の発行にあたって.....	2
第1部 多摩市の概況.....	4
1. 市の概況.....	4
2. 市の環境の現況.....	9
3. 環境に関する取組の経緯.....	26
第2部 多摩市の環境に関する現況と課題.....	27
特集 ごみ問題について.....	27
1. ごみの現状.....	27
2. 多摩地域のごみ量.....	28
(1)多摩地域の他市との比較.....	28
(2)ごみ処理の現状(平成18年度).....	29
(3)ごみ処理に係る経費.....	30
3. 多摩市のごみ減量化の考え方.....	30
4. 「多摩市ごみ減量協働プラン」.....	31
審議会意見 ～「特集 ごみ問題について」の議論を通して.....	32
第1章 平成18年度の取組結果.....	33
(1)環境基本計画(概要).....	33
(2)環境行動計画.....	39
(3)多摩市地球温暖化対策実行計画(市役所の取組み).....	72
第2章 多摩市の環境問題への取組とその体制.....	78
1. 環境方針.....	78
2. 環境保全等のための3つのプラン.....	80
第3章 環境保全施策等の取組体制.....	88
(1)推進体制等の整備.....	88
(2)市民認証制度.....	89
(3)自己点検と内部監査.....	90
(4)環境会計(試算).....	91
第4章 市民との連携.....	92
(1)パートナーシップに向けて.....	92
(2)人づくりにかけて.....	94
(3)市民参加体制の確立.....	95
(4)環境情報の収集・公開体制の確立.....	96
第5章 市民認証(環境審議会の意見)と市民意見.....	97
(1)市民認証(環境審議会の意見).....	97

# 多摩市の環境地図



- 凡例
- 水質・魚類測定地点  
データ等 P14~P18, P53~
  - 大気測定地点  
データ等 P12, P13, P52
  - 河川
  - ススキ・芝等
  - クヌギ・コナラ等の2次林

# かけがえのない地球

## ・多摩市の未来のため

21世紀は環境の世紀と言われています。しかし、私たちの周囲にはあまり危機感を感じられません。環境問題の恐ろしさは、気が付かないうちにすぐそばにまで迫ってきて、取り返しが見つからないことになってしまうことです。

南太平洋に巨大なモアイ像で有名なイースター島があります。かつて楽園であったこの島は、森林破壊をきっかけに荒れ果てた島になってしまったそうです。今、これと同じことを私たちがしているのではないのでしょうか。歴史上の過ちを繰り返し、地球が破滅の道をすすんでいくことをそのまま見過ごすわけにはいきません。

未来は子どもたちのものです。今、私たちがしなければならないことは、多少の痛みを伴っても、子どもたちやすべての生命のためにも、環境を優先して行動しなければならないことです。

便利さに慣れ親しんだ私たちの生活が、森林を破壊し、地球温暖化を加速させ、限りある資源を浪費しているのです。もう一度自分たちの足元から考え直してみましよう。環境問題に特效薬はありません。地球市民である私たち一人ひとりの行動の積み重ねこそが本当に大切なのです。

「多摩市環境基本計画書」には、多摩市の置かれた環境状況、これから行政が何をしなければならないのか、市民・事業者の皆さんと一緒に行動するための考え方などをまとめました。

「自然は先祖から譲り受けたものではなく、子孫から借りているものだ」という言葉が、アメリカンインディアン・ナバホ族の伝承にあります。この言葉を大切に環境問題への取り組みをともに進めましょう。

## 平成 18 年度 多摩市環境報告書の発行にあたって

多摩市は平成 10 年に本市の環境保全等の基本理念および市民、事業者、市の責務を定めた多摩市環境基本条例を制定し、その具体的取り組みを行政計画として位置付けた多摩市環境基本計画を平成 13 年 12 月に策定しました。この環境基本計画を確実に実施し、継続的に改善することを目的に、「多摩市環境マネジメントシステム」および地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき「多摩市地球温暖化対策実行計画」を平成 14 年 3 月に策定し、平成 18 年 3 月には多摩市環境基本計画の第 1 次改定を行いました。これらを基に平成 18 年度の環境への取り組みをまとめ、平成 18 年度環境報告書を作成しました。

本市は環境保全施策について、国際環境規格である ISO14001 における第三者の認証機関による認証取得に替えて、市民・事業者・有識者で構成する多摩市環境審議会の認証（確認）を受ける多摩市独自の認証制度を行っています。この環境報告書は市民のみなさんにもご覧頂き、そのご意見を次年度以降の環境への取り組みに反映をしています。

平成 18 年度の実績結果は、3 つの基本目標の第 1〔うるおいと安らぎの中で人が暮らせるまち多摩 - 和のまちづくり - 〕では、1 人当りの公園面積が増え平成 22 年度短期目標値（13 m<sup>2</sup>）を超えた他、多摩川・大栗川・乞田川の BOD が調査地点すべてで環境基準値内であり目標を達成しました。また、将来にわたって持続性の高い緑地面積率が平成 18 年度の目標値を約 12h a 上回りました。

第 2〔自然の環境の中で人が暮らせるまち多摩 - 環のまちづくり - 〕では、ダイオキシン類濃度、大気汚染物質（二酸化いおう、二酸化窒素）濃度が環境基準値内であり目標を達成しました。一方で、再生利用率が昨年度に引続き前年度を下回り、ごみの埋め立て処分量は、エコセメント工場の稼働が 7 月になったため、平成 18 年度の単年度目標値を達成できませんでした。また、河川の大腸菌群数については、すべての調査地点で環境基準値を超えていましたが、前年度に比較して測定値は大幅に低くなっております。平成 17・18 年度に行った乞田川・大栗川の大腸菌追跡調査の結果から、病原性をもつ大腸菌汚染の可能性は非常に低く、殆んどが土壌等の自然由来によるものと考えられます。

その他、地球温暖化に大きく影響を与える二酸化炭素の排出量《多摩市内で使われた電気・都市ガスの消費量とごみ焼却量から算出》は、前年度より減少しましたが、平成 22 年度目標の達成に向け更なる努力が必要です。

「エアコンの設定温度を適正にする」など、各ご家庭でもすぐに二酸化炭素の排出量を減らすことが出来ます。市で発行している「家庭でできるエコライフ」をご覧ください是非実践してみてください。

第 3〔みんなが身近な暮らしの中で環境について考え、行動するまち多摩 - 輪のまちづくり - 〕では、環境に係る情報を収集し多摩市公式ホームページの定期的な更新を行う等の情報提供に努めています。また、環境報告書の確認（市民認証）は今年で 6 回目となりますが、今年度は多摩市環境審議会等からのご意見をいただきながら、よりわかり易く身近に感じられる環境報告書を目指し、報告書に特集を組むなど構成を変え作成しました。

最後に、本環境報告に対するパブリックコメントを 4 件いただきました。ご意見は市の回答とともに環境審議会に報告し、最終章に掲載をしました。貴重なご意見をいただいた皆様、大変有り難うございました。今後とも、市民、事業者のみなさんと協働して環境への取り組みを推進していきたいと存じます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 19 年 10 月  
多摩市長 渡辺 幸子